

# ウトロ地域マリンビジョンニュース

発行・編集・ウトロ地域マリンビジョン協議会事務局

ウトロ地域マリンビジョンニュースは、町民のみなさんと一緒にウトロ地域で水産業を核とした地域振興を進める「ウトロ地域マリンビジョン計画」の推進状況などをお知らせするお便りです。

## ウトロ地域マリンビジョン協議会 からの報告

### 平成26年9月30日にウトロ地域マリンビジョン協議会を開催しました！

出席者28名

今回の協議会は委員の他に、漁業者・漁協青年部・漁協女性部・観光協会から補助員をプラスし、3つのグループ(A、B、C)に分かれてマリンビジョン計画の見直しの第一歩として開催しました。



漁港の航空写真やフセンなどを使いながら新たなアイデア・既存事業の見直しについて議論を行いました。

それぞれのグループは  
漁業関係者・観光関係者・地域住民関係者・行政で構成されております。



その後、各グループで中間発表を行いました。  
今後もう一度グループによる検討を行い、計画の見直しをしていきます。



#### 各グループの検討内容

##### グループA

- ・観光客の網起こし見学を以前にも検討したが、ハードルが高く、実現に至っていない。出来ることからやるのが大事。
- ・新港への荷揚げが移れば、安全を確保した状態で観光客に荷揚げ作業を見せられる。
- ・新港も含めた散策マップを作成すれば、荷揚げ作業の見学や観光船での遊覧の後に婦人部食堂で昼食をとる、といった一連の流れが分かりやすく観光客へ提供できる。
- ・鮮魚を扱う直売店など、地元の人が買うものを観光客は買いたがっている。
- ・地元食材を用いた郷土料理or新メニューをホテルや飲食店で販売しコンテストを行う。過去にも焼き漬け丼があったが、もっと大規模に行わないと続かない。
- ・冬期間の集客力アップについて、知床峠の通年開通or冬期間の開通範囲の拡大・知床ファンタジアの期間や規模の再検討が必要である。
- ・観光船乗客へのウトロをアピールする物(トバ等)の配布。
- ・一方、ウトロは漁業・自然遺産・観光が交わる特殊な地域であるため、連携が難しい面もある。
- ・また、現計画での反省点として、事業の実現性の課題・ムリに連携することにより各分野への負担が大きくなり、事業自体が頓挫してしまうのでは？といった意見も出された。



## グループB

1. ウトロ漁港の整備全般について簡単に説明、人口地盤下部(衛生管理エリア)の利活用の可否について確認。
2. 各メンバーは何をどのように考えていいのかわからない雰囲気であったため、進行役からいくつかの案を示して、まずは口頭により意見集約を図り、そのうえで、カードにそれぞれの案を出してもらうように促した。
3. 出された案について、同じような案はまとめ、ある程度グループ分けをしたうえで、それぞれの案について、各委員に投票をしてもらい、重点的に検討する事業を選択した。今回提出された案については、現状では全て取り込むことを前提として、今後の検討の中で精査していくことを確認した。
  - ・漁港を利用した花火大会を目玉として、集客効果を図るため、サケの水揚げ～地場産食材を利用した食の提供～サケ・イクラの作り方や活用方法の講習会～即売会～ビアガーデン～花火大会に結び付け、宿泊を前提としたイベントにして、翌日は網起こし見学、観光船による周遊といったコース化を図る
  - ・大型観光船乗船者(先着何名とかに、無料イクラ丼提供)または、花火大会とマッチングしたナイトクルーズ
  - ・ウトロ～羅臼の人工地盤間でのマラソン大会、サイクリング等の実施
  - ・秋サケやブリの釣り大会(例:秋サケのダービー/ライセンス期間中に日にち限定で、尾数制限なしの一斉スタートによる釣り大会)
  - ・産業まつり的なイベント開催
  - ・秋サケオーナー制度、舟漕ぎ大会といった、各案を複合的に取り入れた活用方策の検討がされた。
4. 今後においては、実現の可能性について、更に検討を進める。

## グループC

1. 連携事業についてメンバー各々がカードに案を書き、簡単なプレゼンを行った。
2. 同じような案、近い案をグループ化したうえで、重点的に検討する事業を選択するため投票を行った。票数が多かった事業は下記のとおり。
  - ・子供が遊べるビーチづくり。地元の子供でさえ遊ぶ磯や浜がないため。マリンスポーツ体験の場としても期待。
  - ・水揚げを見ながら食事と買い物ができるよう、漁協直売店と婦人部食堂を合体させる。観光客向けイクラ造りや地元主婦向けイズシ造り講習会なども?
  - ・観光、漁業関係者が一体となったイベントの実施。イメージとしてはミニ産業まつり、収穫祭、屋台祭。まずは一体となって取り組む象徴的なものが必要。
  - ・網起こし体験ツアー、網起こし見学。人数が多ければオーロラ、少なければ小型観光船という選択肢もある。
  - ・流氷ウオークをやった後に楽しめるものを考える。クリオネすくい、流氷風呂など。
  - ・フェイスブックなどSNSを活用した情報発信。
  - ・キャンピングカー対策。道の駅への長期滞在は好ましくない。
  - ・子供が遊べる公園を造る。ドックランもあったらよい。
3. 今後については、各案の可能性について情報収集したうえで10月21日に再協議を行い、重点事業の決定、具体的な実施方法の検討を行う。

